

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-30C	14-128	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
<p>The interplay between alcohol consumption, oral hygiene, ALDH2 and ADH1B in the risk of head and neck cancer.</p> <p>頭頸部癌における飲酒、口腔衛生、アルコール代謝関連遺伝子（ALDH2、ADH1B）間の相互作用</p>		
執筆者		
Tsai ST1, Wong TY, Ou CY ほか		
掲載誌		
Int J Cancer. 2014 Nov 15;135(10):2424-36. doi: 10.1002/ijc.28885.		
キーワード		PMID
頭頸部癌、症例対照、エタノール代謝、口腔衛生、ADH1B、ALDH2		24719202
要 旨		
<p>目的：</p> <p>頭頸部癌の発癌物質であるアセトアルデヒドは、エタノールの人体での代謝または口腔内微生物による代謝により生成される。頭頸部癌の発症において、口腔衛生とエタノール代謝に関する遺伝子（ADH1B、ALDH2）とがどのように相互作用するかを症例対照研究により検討した。</p> <p>方法：</p> <p>2010年から2013年の間に国立 Cheng Kung 大学病院にて頭頸部癌と診断された436名を症例群とした。対照群は非腫瘍性疾患で外科手術を受けた514名とした。口腔衛生状態は、定期的な歯科受診の有無、1日あたりの歯磨き回数等からスコア化し評価した。</p> <p>結果：</p> <p>ADH1Bのfastタイプとslowタイプはいずれも飲酒による頭頸部癌リスクを増大させた。fast ADH1Bを有する群の中で、飲酒による頭頸部癌リスクはslow/non-functional ALDH2を有する群で増大した。slow ADH1Bを有する群では、口腔衛生が悪い群ほど飲酒による頭頸部癌リスクが増大した。</p> <p>結論：</p> <p>本研究により、飲酒と頭頸部癌リスクとの関連が、エタノール代謝酵素の遺伝子多型および口腔衛生状態により異なることが初めて示唆された。しかしながら、断酒や飲酒量を減少させていくことは頭頸部癌予防において重要であることは変わらず、さらに口腔衛生を改善させることによりさらなるベネフィットが得られるであろう。</p>		